

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成23年10月6日(2011.10.6)

【公開番号】特開2010-72130(P2010-72130A)

【公開日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-013

【出願番号】特願2008-237330(P2008-237330)

【国際特許分類】

G 03 F 7/40 (2006.01)

B 41 N 1/12 (2006.01)

G 03 F 7/00 (2006.01)

【F I】

G 03 F 7/40

B 41 N 1/12

G 03 F 7/00 502

【手続補正書】

【提出日】平成23年8月19日(2011.8.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

露光工程、現像工程および後処理工程を含む感光性樹脂凸版印刷版の製造方法であって、前記後処理工程が、熱処理、活性光源による後露光処理および電子線処理からなる群から選択される処理であり、

前記後処理工程前又は後処理工程中に、前記凸版印刷版の版面に、フッ素系界面活性剤(A)を付着させる工程を含む製造方法。

【請求項2】

前記現像工程における現像が溶剤現像である請求項1に記載の製造方法。

【請求項3】

前記フッ素系界面活性剤(A)の、酢酸エチル0.1wt%溶液における表面張力が25mN/m以下である請求項1または2に記載の製造方法。

【請求項4】

前記フッ素系界面活性剤(A)の付着を、現像工程の後であって、後処理工程の前にいう請求項1~3いずれか一項に記載の製造方法。

【請求項5】

前記フッ素系界面活性剤(A)を溶媒に溶解して付着する請求項1~4いずれか一項に記載の製造方法。

【請求項6】

前記現像工程における現像が、前記フッ素系界面活性剤(A)を含有する現像液を用いて行う溶剤現像である請求項1~5のいずれか一項に記載の製造方法。

【請求項7】

前記フッ素系界面活性剤(A)が、ノニオン系フッ素系界面活性剤である請求項1~6のいずれか一項に記載の製造方法。

【請求項8】

前記溶媒が、水および/または水に可溶な溶媒である請求項5に記載の製造方法。

【請求項 9】

前記感光性樹脂凸版印刷版が、少なくとも共役ジエンを主体とする第1の重合体ブロック、およびビニル芳香族炭化水素を主体とする第2の重合体ブロックを含むブロック共重合体を含有する請求項1～8のいずれか一項に記載の製造方法。

【請求項 10】

前記感光性樹脂凸版印刷版がフレキソ印刷用感光性樹脂版である請求項1～9のいずれか一項に記載の製造方法。

【請求項 11】

請求項1～10のいずれか一項に記載の方法により製造される、感光性樹脂凸版印刷版。

【請求項 12】

感光性樹脂凸版印刷版の版面用処理液であって、フッ素系界面活性剤(A)を含有する処理液。

【請求項 13】

前記フッ素系界面活性剤(A)が、ノニオン系フッ素系界面活性剤である請求項12に記載の処理液。

【請求項 14】

水および/または水に可溶な溶媒を含有する請求項12または13に記載の処理液。

【請求項 15】

前記フッ素系界面活性剤(A)の、酢酸エチル0.1wt%溶液における表面張力が24mN/m以下である請求項12～14のいずれか一項に記載の処理液。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明者らは、上記課題を解決するために鋭意検討した結果、感光性樹脂凸版印刷版の製造方法において、特定の化合物を、特定の時期に凸版印刷版に付与することで上記従来技術の問題点を克服することを見出した。すなわち、本発明は以下のとおりである。

1. 露光工程、現像工程および後処理工程を含む感光性樹脂凸版印刷版の製造方法であって、前記後処理工程が、熱処理、活性光源による後露光処理および電子線処理からなる群から選択される処理であり、

前記後処理工程前又は後処理工程中に、前記凸版印刷版の版面に、フッ素系界面活性剤(A)を付着させる工程を含む製造方法。

2. 前記現像工程における現像が溶剤現像である上記1.の製造方法。

3. 前記フッ素系界面活性剤(A)の、酢酸エチル0.1wt%溶液における表面張力が25mN/m以下である上記1.または2.の製造方法。

4. 前記フッ素系界面活性剤(A)の付着を、現像工程の後であって、後処理工程の前に行う上記1.～3.いずれかの製造方法。

5. 前記フッ素系界面活性剤(A)を溶媒に溶解して付着する上記1.～4.いずれかの製造方法。

6. 前記現像工程における現像が、前記フッ素系界面活性剤(A)を含有する現像液を用いて行う溶剤現像である上記1.～5.いずれかの製造方法。

7. 前記フッ素系界面活性剤(A)が、ノニオン系フッ素系界面活性剤である上記1～6のいずれかの製造方法。

8. 前記溶媒が、水および/または水に可溶な溶媒である上記5.の製造方法。

9. 前記感光性樹脂凸版印刷版が、少なくとも共役ジエンを主体とする第1の重合体ブロック、およびビニル芳香族炭化水素を主体とする第2の重合体ブロックを含むブロック共重合体を含有する上記1.～8.のいずれかの製造方法。

10. 前記感光性樹脂凸版印刷版がフレキソ印刷用感光性樹脂版である上記1. ~ 9. のいずれかの製造方法。

11. 上記1. ~ 10. のいずれかの方法により製造される、感光性樹脂凸版印刷版。

12. 感光性樹脂凸版印刷版の版面用処理液であって、フッ素系界面活性剤(A)を含有する処理液。

13. 前記フッ素系界面活性剤(A)が、ノニオン系フッ素系界面活性剤である上記12. の処理液。

14. 水および/または水に可溶な溶媒を含有する上記12. または13. の処理液。

15. 前記フッ素系界面活性剤(A)の、酢酸エチル0.1wt%溶液における表面張力が24mN/m以下である上記12. ~ 14. のいずれかの処理液。